

みめぐり稲荷社と伝説

春日部中学校の付近にある東武鉄道の踏切（俗に「金山の踏切」という）の際に稲荷社がある。この社を金山の稲荷社、または「三圃稲荷」みめぐりいなりとも呼ばれている（東京都墨田区にも「三圃稲荷」という有名な神社が隅田川沿岸にある）

この稲荷社は、現在地に移されたものでそれ以前は、現在の春日部中学校の敷地内で江曾堤の際にあり、古隅田川のほとりに祀られていた。現在の社は大正初期に移転したと伝えられている。

昔の祠はそのまま残されていて春日部中学校が開校されてからもしばらくは校庭の中にあつて生徒の格好の写生場所となっていた。推測するに現在の春日部中学校の図書室の前あたりになると思われるが、数本の赤松の生えた、高さ一・五メートル程で十平方メートル位の塚の形をした場所があつたが、今は取り払られてしまいその跡も不明である。

「みめぐり稲荷」の伝説としては、昔、近江の国・三井寺の僧が霊夢に現われた祠を尋ねて、この地に来て、祠を発見し、荒れていた祠を改築した。そのとき、祠の下から「つぼ」が出て来たので、蓋を取り中をあらた

めたところ、右手に数珠を、左手に稲穂を持った神像が納められていた。神像を取り出して拝んだその時、突然一匹の白いキツネがあらわれて、この神像のまわりを、三度めぐってその姿が消えてしまったという。

キツネは稲荷様のお使いと云われているところから、この神像は稲荷大明神であると信じ、この祠に祀つたと伝えられ、社の名も「三圃稲荷」と村人等に伝えられたという。

また或る時、この祠の近くに住む老婆の家の前に、母キツネが倒れており、そこに子キツネが乳房を吸っていたのを発見して、老婆は憐れに思つて、この子キツネを拾つて育てていたところ、不思議な事に、この子キツネは良く吉凶を知らせてくれるので、老婆は他人の運勢を占うようになったと云う話がある。

また、大正の初期、社が現在地に移された当時のことであるが、近くに住む男が、或る日突然、この祠にもつて何かを訴えるように祈りをつづけて、動かなくなつてしまった。家族の者が如何に説得しても、また近所の者が心配して説諭しても、まったく動じない。そしてこのたびの稲荷社の遷座は神意にさからうものだと訴えている。祠にこもつて数カ月過ぎた西風の強い日の午後、踏切側の家から出火し、その家が全焼してしま

った。付近の人たちは、これらの事から、それは稲荷様のたたきだと、おそれて噂をし合ったということが伝えられている。

※歴史余話についてのご意見・ご批評を左記までお寄せください※¹。

春日部市粕壁東三・二・十九

粕壁小学校第三校舎内

春日部市史編さん室宛

(電話) ⑥1 六四四二番

初出「広報かすかべ 昭和五十五年九月」かすかべの歴史余話

※1 掲載当時のまま作成しました。現在は、ご意見・ご批評を募集しておりません。また、市史編さん室は、

春日部市教育センターで活動しております。(平成二十八年十月現在)